

平成 30 年度
環境保全のあらまし
(平成 29 年度実績)



武蔵村山市

目 次

《 工場・指定作業場関係 》

- 1 工場・指定作業場…………… P3
- 2 騒音・振動規制法に基づく届出…………… P5
- 3 燃料中における硫黄調査…………… P7
- 4 産業廃棄物処理業者ダイオキシン・ばいじん調査…………… P9

《 苦情関係 》

- 1 公害苦情受付状況…………… P10
- 2 雑草等の繁茂…………… P11
- 3 公害に関する苦情以外の苦情…………… P11

《 環境学習関係 》

- 1 地球環境保全に係るポスター・標語の募集…………… P12
- 2 親と子の環境教室…………… P13
- 3 環境学習会…………… P14
- 4 環境副読本…………… P14

《 騒音関係 》

- 1 環境騒音調査…………… P15
- 2 主要幹線道路環境調査…………… P17
- 3 自動車騒音常時監視調査…………… P20
- 4 横田基地航空機騒音調査…………… P21
- 5 立川飛行場等航空機騒音調査…………… P25

《 大気関係 》

- 1 酸性雨調査…………… P26
- 2 二酸化窒素調査…………… P26
- 3 ダイオキシン類調査…………… P28
- 4 光化学スモッグ注意報等発令状況…………… P30

《 河川等の水質関係 》

- 1 残堀川調査…………… P32
- 2 空堀川調査…………… P34
- 3 その他の河川調査…………… P36
- 4 地下水汚染調査…………… P37
- 5 地下水揚水量報告…………… P38

《 その他 》

1	飼い主のいない猫去勢不妊手術補助金	P40
2	犬のふん放置防止啓発看板	P40
3	ペットの飼い方教室	P41
4	ユスリカ等害虫駆除	P41
5	殺そ剤の配付状況	P42
6	スズメバチ駆除作業補助金・薬剤の販売	P42
7	畜犬登録事務	P43
8	アライグマ・ハクビシン防除事業	P44
9	みどりのカーテンキット配布事業	P44
10	環境フェスタ	P45
11	省エネナビ貸出事業	P45
12	打ち水イベント	P45
13	空間放射線量測定	P46

《 工場・指定作業場関係 》

1 工場・指定作業場

工場とは、主に定格出力の合計が0.75キロワット以上の原動機を使用する物品の製造、加工又は作業を常時行う工場をいいます。また、2.2キロワット以上の場合はすべて工場となります。

指定作業場については、駐車場やボイラー等の32種類の事業所をいいます。

都民の健康と安全を確保する環境に関する条例（以下、「環境確保条例」という。）では、騒音、振動などの様々な公害を発生させる恐れのある工場・指定作業場に対する手続的規制として認可制度等を規定しており、環境確保条例に基づき市で公害防止措置が取られているか書類審査等を行っています。

なお、工場の認可申請に対する審査事務手数料として、武蔵村山市事務手数料条例に基づき手数料がかかります。

(ア) 手数料

工場設置の場合	工場の作業場の床面積の 合計が500㎡以下	8,700円
	工場の作業場の床面積の 合計が500㎡を超え1,000㎡以下	14,200円
	工場の作業場の床面積の 合計が1,000㎡を超える	20,200円
工場変更の場合	全て	7,600円

(イ) 工場数及び指定作業場数

(単位：件)

年 度	工場		合計	指定作業場		合計
	市委任分	都留保分		市委任分	都留保分	
平成25年度	712	0	712	315	1	316
平成26年度	709	0	709	318	1	319
平成27年度	710	0	710	318	1	319
平成28年度	711	0	711	319	1	320
平成29年度	712	0	712	326	1	327

※ 当該年度当初における工場及び指定作業場の実数

(ウ) 工場関係届出件数①

(単位：件)

年度	設置			変更			その他						合計
	受理	認可	認定	受理	認可	認定	完成届	氏名等 変更届	承継届	認可申請 取下願	事故届	廃止届	
平成 25 年度	1	1	2	2	2	0	2	4	1	0	2	1	18
平成 26 年度	0	0	0	2	2	4	4	5	0	0	0	3	20
平成 27 年度	2	2	2	2	2	2	4	7	0	0	0	1	24
平成 28 年度	7	6	3	5	5	5	6	5	1	0	0	4	47
平成 29 年度	9	10	7	8	8	7	17	7	0	0	0	1	74

(エ) 工場関係届出件数②

(単位：件)

年度	工場設置認可申請			工場変更認可申請
	作業場の床面積が 500 m ² 以下	作業場の床面積が 500 m ² を超え1,000 m ² 以下	作業場の床面積が 1,000 m ² を超える	
平成 25 年度	0	0	1	2
平成 26 年度	0	0	0	2
平成 27 年度	2	0	0	2
平成 28 年度	4	3	0	5
平成 29 年度	6	2	1	8

(オ) 指定作業場関係届出件数

(単位：件)

年度	設置届出 受理	変更届出 受理	氏名等変更 届出受理	廃止届出 受理	承継届出 受理	合計
平成 25 年度	1	0	7	2	1	11
平成 26 年度	3	0	2	0	0	5
平成 27 年度	2	0	5	1	0	8
平成 28 年度	8	0	1	1	1	11
平成 29 年度	0	1	5	0	0	6

2 騒音・振動規制法に基づく届出

騒音規制法・振動規制法では、工場などから出る著しい騒音・振動を発生する個々の機械を特定施設として定めて規制しています。

また、建設作業によって著しい騒音・振動を発生させる作業や機械を使用する場合は、施工者は、市に対し作業内容等について届け出（作業開始 7 日前まで）をするよう定めています。

市では、これらの法律に基づき、規制基準を遵守するよう指導を行うことにより、公害発生の未然防止に努めています。

(ア) 騒音規制法及び振動規制法に基づく事業数及び施設数

(単位：件)

年度	法 律	事業所数 (件)	施設数 (台)
平成 25 年度	騒音	203	1,238
	振動	167	1,049
平成 26 年度	騒音	203	1,237
	振動	167	1,048
平成 27 年度	騒音	205	1,234
	振動	167	1,043
平成 28 年度	騒音	206	1,236
	振動	168	1,053
平成 29 年度	騒音	228	1,288
	振動	179	1,067

(イ) 特定建設作業の届出受理件数

(単位：件)

年 度	法 律	実施届出受理
平成 25 年度	騒音	15
	振動	15
平成 26 年度	騒音	10
	振動	10
平成 27 年度	騒音	7
	振動	6
平成 28 年度	騒音	29
	振動	27
平成 29 年度	騒音	24
	振動	22

(ウ) 特定施設の各種届出件数

(単位：件)

年度	法律	設置届出 受 理	数変更届出 受 理	使用方法変 更届出受理	防止方法変 更届出受理	氏名等変更 届 出 受 理	使用全廃 届 出 受 理	承継届出 受 理
平成 25 年度	騒音	0	3	0	0	4	0	0
	振動	0	3	0	0	1	0	0
平成 26 年度	騒音	0	1	0	0	2	0	0
	振動	0	1	0	0	1	0	0
平成 27 年度	騒音	1	1	0	0	4	0	1
	振動	1	1	0	0	4	0	1
平成 28 年度	騒音	4	0	0	0	0	0	1
	振動	4	0	0	0	0	0	0
平成 29 年度	騒音	2	1	0	0	2	0	0
	振動	3	1	0	0	2	0	0

3 燃料中における硫黄調査

工場又は指定作業場は、一定量以上の燃料を使用する場合、環境確保条例第 69 条第 1 項で硫黄酸化物による大気汚染を防止するため、硫黄の燃料中における含有率が規制されています。

市では、環境確保条例施行規則で定める燃料の基準に適合した燃料を使用しているか確認するため、毎年度、市内にある工場と指定作業場に対し、抜き打ちで燃料を採取し、分析を行っています。

(ア) 燃料中における硫黄含有率

(単位 swt%)

地域区分	その他の市町村の区域 (武蔵村山市)					
燃料使用量 による規模	設置区分 A (S51.8.1 前設置)			設置区分 B (S51.8.1 以後設置)		
	3000以上 5000未満	5000以上 2,0000未満	2,0000以上	3000以上 5000未満	5000以上 2,0000未満	2,0000以上
燃料の基準 (燃料中における 硫黄含有率)	1.0 以下	1.0 以下	0.8 以下	0.8 以下	0.8 以下	0.5 以下

(イ) 市内工場調査結果

事業所名	使用 燃料	燃料使用量 (l/日)	基準値	各年度分析値 (swt%)				
				平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
砂原塗装(株)	A重油	260	1.0	0.09	0.09	0.09	0.09	0.05
㈱いなげや武蔵村山精肉センター	A重油	—	—	0.08	0.04	廃止	廃止	廃止
市立学校給食センター	A重油	468.75	1.0	0.18	0.05	0.10	0.05	0.06
(有)川口油脂工業所	A重油	250	0.8	0.07	0.06	0.05	0.05	0.05
日本医療衛生サービス(株)	A重油	11.5	0.8	0.06	0.14	0.13	0.07	0.05
ニシハラ理工(株)本社工場	A重油	—	—	0.08	0.04	0.04	廃止	廃止

※ 一日当たりの燃料使用量が 3000以上の事業所は市立学校給食センターのみ。

※ 廃止とは、重油を使用する施設を撤去した場合等をいう。

(ウ) 市内指定作業場調査結果

事業所名	使用燃料	燃料使用量 (t/日)	基準値	各年度分析値 (swt%)				
				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
(独) 国立病院機構 村山医療センター	A重油	—	—	0.07	廃止	廃止	廃止	廃止
(福) 鶴風会 東京小児療育病院	A重油	—	—	0.07	0.06	0.08	0.07	廃止

※ 一日当たりの燃料使用量が3000以上の事業所は市立学校給食センターのみ。

※ 廃止とは、重油を使用する施設を撤去した場合等をいう。

4 産業廃棄物処理業者ダイオキシン・ばいじん調査

ダイオキシン類の発生源は、約 9 割が身の回りのごみや廃棄物を焼却する時に出ると推定されています。市内には、ダイオキシン類（特に PCDD 及び PCDF）の発生源の 1 つである産業廃棄物の焼却処理を行っている事業所が 2 箇所あります。このため、市では、この 2 事業所が、適正に管理運営されているか確認するため、年 1 回、排ガス中のダイオキシン類とばいじんの測定を行っています。

また、ダイオキシン類対策特別措置法は、火床面積 0.5 m² 以上又は焼却能力 50kg/h 以上の焼却炉に対し、年 1 回以上、排ガス中等のダイオキシン類の測定及び報告を義務付け、都はその結果を公表しています。

(ア) 産業廃棄物処理業者ダイオキシン類調査結果

(単位：ng-TEQ/m³N)

事業所名	各年度調査結果									
	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果
日本医療衛生サービス㈱	12/19	0.092	11/12	0.11	11/18	0.032	11/24	0.047	1/17	0.042
比留間運送㈱	11/22	3	11/17	※13	11/30	1.7	11/25	7.6	1/16	2.0
基準値	当該事業所の火床面積が 0.5 m ² 以上、又は焼却能力が 50 kg/h 以上で、施設規模（焼却能力）は、2t/h 未満に該当する。 新施設基準は、5ng-TEQ/m ³ N 以下。（現在該当なし） 既施設基準は、10ng-TEQ/m ³ N 以下。（日本医療衛生サービス㈱、比留間運送㈱）									

※ 平成 26 年度に実施した比留間運送（株）の調査結果は基準値を超過したが、その後速やかに改善が図られた。

(イ) 産業廃棄物処理業者ばいじん調査結果

(単位：g/m³N)

事業所名	各年度調査結果									
	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果	調査日	調査結果
日本医療衛生サービス㈱	12/19	<0.001	11/12	<0.001	11/18	0.006	11/24	0.002	1/17	0.001
比留間運送㈱	11/22	0.002	11/17	<0.001	11/30	<0.001	11/25	0.003	1/16	0.003
基準値	当該事業所の施設規模（焼却能力）は、2t/h 未満に該当する。 新施設基準は、0.15 g/m ³ N 以下。（現在該当なし） 既施設基準は、0.25 g/m ³ N 以下。（日本医療衛生サービス㈱、比留間運送㈱）									

《 苦情関係 》

1 公害苦情受付状況

市内では、工場、店舗、住宅や自動車、道路など、多くの人によって様々な活動が行われています。そのため大気や水質汚染、騒音、振動など、いろいろな公害が発生しています。これらの公害の中には、改善されているものもありますが、まだ、十分でないものもあります。その多くは、私たちの生活の中から発生しています。また、最近では、宅地開発が進み住宅が密集してきたことから隣近所間の苦情が増えてきています。自己中心的な生活ではなく、他人への思いやりや気配り、コミュニケーションを交わせるような関係を日頃からつくることが大切です。

(環境基本法で定める公害)

・大気汚染 ・水質汚濁 ・土壌汚染 ・騒音 ・振動 ・地盤沈下 ・悪臭

〈年度別公害苦情件数〉

(単位：件)

		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
発 生 源 別	工 場	20	10	9	11	10
	指定作業場	2	5	1	5	2
	建設作業	3	0	1	3	7
	一 般	132	120	142	70	103
	合 計	157	135	153	89	122
現 象 別	ば い 煙	30	18	24	15	12
	粉 じ ん	4	0	0	0	0
	悪 臭	10	15	13	7	7
	汚 水	4	0	4	1	3
	騒 音	28	27	19	19	25
	振 動	0	0	0	0	2
	そ の 他	81	75	93	47	73
	合 計	157	135	153	89	122

※ 平成 28 年度から「公害苦情」と「公害に関する苦情以外の苦情」とを分けて計上している。

2 雑草等の繁茂

雑草等が繁茂していると害虫等の発生やごみの不法投棄の原因ともなるため、市内の雑草調査を行い、土地所有者などに対し、雑草が繁茂している空地については、雑草等の除去要請を行っています。

雑草等が繁茂している土地の管理の適正化を図り、市民の生活環境を良好に保全するため、武蔵村山市草刈機貸付要綱に基づき、市が所有する草刈機の貸し出しを行っています。

〈空地の管理の適正化に関する指導状況等〉

年 度	雑草除去要請			草刈機貸出 件数 (件)
	地主数 (人)	筆数 (筆)	対象面積 (㎡)	
平成 25 年度	13	18	6,488	45
平成 26 年度	15	18	8,440	48
平成 27 年度	2	3	935	46
平成 28 年度	0	0	0	43
平成 29 年度	7	8	1,768	29

※ 雑草除去要請に関して、平成 27 年度までは空家の敷地も含む

3 公害に関する苦情以外の苦情

野良猫によるふん尿被害や鳥類の鳴声等の公害以外の発生源による苦情も多くあります。野良猫については、餌付けをしないことが基本ですが、餌付けをする場合は、近隣に迷惑のかからないよう注意を払い、必要であれば避妊去勢手術を受けさせて、増加を防ぐことが重要です。また、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」(以下「鳥獣法」という。)の観点でむやみに保護できない生物を見つけた人間の手は加えず、立ち去るのを待つことが大切です。

〈公害に関する苦情以外の苦情に関する指導状況等〉

(単位：件)

年 度	犬		猫		その他	合計
	ふん尿	その他	ふん尿	その他		
平成 28 年度	5	6	5	6	2	24
平成 29 年度	3	6	10	2	2	23

※ 平成 28 年度から「公害苦情」と「公害に関する苦情以外の苦情」とを分けて計上している。

《 環境学習関係 》

1 地球環境保全に係るポスター・標語

市では、地球環境保全に対する市民意識の啓発及び高揚を図ることを目的として、市内中学校の生徒に対し、地球環境保全に係るポスター及び標語の募集を行っています。

前年度に市内各中学校1・2年生のいずれかを対象にポスター及び標語の作成を依頼し、原則としてその学年のクラス数分を応募作品としています。

コンクールでは、応募作品の中から各中学校で優秀作品を選び、優秀作品の中から1点最優秀作品を選出し、これをもとに環境保全啓発ポスターを作成し、6月の環境月間から市内公共施設や事業所に掲出を依頼しています。

また、環境月間中に1週間、市役所1階ロビーにポスター及び標語を掲示しました。

さらに、標語については、市役所北側玄関のガラス面に掲出しました。

〈ポスターの応募状況等〉

年 度	ポ ス タ ー			
	応募人数（人）	優秀賞受賞者人数（人）	最優秀賞受賞者名	学校名/学年
平成 25 年度	644	15	羽 鳥 愛 美	小中一貫校村山学園/1年生
平成 26 年度	663	19	富 樫 真 琴	五中/2年生
平成 27 年度	747	23	藤田くらら	五中/2年生
平成 28 年度	671	20	堂領のどか	小中一貫校村山学園/2年生
平成 29 年度	725	22	門脇 茉鈴	三中/1年生

※ 優秀賞受賞者人数には最優秀賞受賞者も含まれる。

〈標語の応募状況等〉

年 度	標 語			
	応募人数（人）	優秀賞受賞者人数（人）	※最優秀賞受賞者名	学校名/学年
平成 25 年度	547	19	石 田 憂 月	一中/2年生
平成 26 年度	655	23	松 橋 愛 結	三中/1年生
平成 27 年度	720	23	鳥 海 実 希	一中/1年生
平成 28 年度	676	21	長谷川悠季	小中一貫校村山学園/1年生
平成 29 年度	740	24	柳 下 拓 男	三中/1年生

※ 優秀賞受賞者人数には最優秀賞受賞者も含まれる。

2 親と子の環境教室

空堀川水環境確保対策会は、流域4市（武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市）で組織され、空堀川の水質浄化及び水量の確保を図りながら、快適な水辺環境の創出を目指すことを目的として、毎年、空堀川の水質調査を実施し、東京都へ要請活動を行っています。

また、環境教育を推進していくため、広く環境に関して学習し、関心と認識を高めることを目的として、水辺環境や環境関連施設の見学等を、小学生を対象に保護者同伴の上、年1回（夏休み期間中、7月末）実施しています。

〈親と子の環境教室実施状況〉

(単位：人)

実施日		実施場所	参加人数				
			武蔵村山市	東大和市	東村山市	清瀬市	合計
平成25年度	7.23	東京ガス環境エネルギー館	24	29	19	22	94
平成26年度	7.30	埼玉県立 川の博物館	25	22	20	13	80
平成27年度	7.29	山梨県桂川ウェルネスパーク	25	21	24	20	90
平成28年度	7.27	東京都葛西臨海水族園	26	26	25	26	103
平成29年度	7.26	がすてなーに ガスの科学館・東京都水の科学館	22	25	26	9	82

3 環境学習会

武蔵村山市環境基本条例が平成 16 年 7 月 1 日に施行されたことに伴い、第 12 条「環境保全等に関する学習の推進」に基づき平成 17 年度から、市民を対象に狭山丘陵を中心に市内の環境について、関心を持ってもらい、市内環境への意識を高めることを目的に年 2 回実施しています。

〈環境学習会実施状況〉

(単位：人)

実施日		実施場所	実施内容	参加人数
平成 25 年度	10. 19	里山民家周辺	昆虫観察会	13
	3. 23	里山民家周辺	野鳥観察会	12
平成 26 年度	10. 18	里山民家周辺	昆虫・水生生物観察会	18
	2. 28	里山民家周辺	生き物観察会	15
平成 27 年度	10. 25	里山民家周辺	生き物観察会	23
	2. 20	都立野山北・六道山公園内	野鳥観察会	26
平成 28 年度	11. 5	里山民家周辺	昆虫・植物観察会	27
	2. 18	里山民家周辺	動植物観察会	29
平成 29 年度	10. 28	都立野山北・六道山公園内	昆虫・植物観察会	25
	2. 18	都立野山北・六道山公園内	自然散策会	18

4 環境副読本

子どもたちの将来にわたる環境保全の関心を高め、正しい理解と認識を持ってもらうため、市内小学 5 年生を対象に環境副読本「みんなで考えよう！市内の環境について」を作成し、配布しています。

《 騒音関係 》

1 環境騒音調査

環境調査の一環として、市内全域を 500m メッシュに区切り、用途地域並びに環境基準の地域区分を考慮し、メッシュ内で各 1 地点延べ 55 地点を選定し、調査地域別に、それぞれそこに存在する支配的な不特定多数の混合された騒音（環境騒音）を調査し、環境基本法第 16 条第 1 項の規定に基づく、騒音にかかる環境基準適合状況並びに付近の環境に与える影響を把握し、今後の環境対策資料としています。

(ア) 環境騒音による環境基準

(単位：dB)

類型 地域	当てはめ地域	地域の区分	時間の区分	
			昼間 (6時～22時)	夜間 (22時～6時)
AA	清瀬市の区域のうち、松山 3 丁目 1 番、竹丘 1 丁目 17 番、竹丘 3 丁目 1 番から 3 番まで及び竹丘 3 丁目 10 番の区域		50 以下	40 以下
A	第 1 種低層住居専用地域 第 2 種低層住居専用地域 第 1 種中高層住居専用地域 第 2 種中高層住居専用地域 これらに接する地先、水面	一般地域	55 以下	45 以下
		2 車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 以下	55 以下
B	第 1 種住居地域 第 2 種住居地域 準住居地域 用途地域の定めのない地域 これらに接する地先、水面	一般地域	55 以下	45 以下
		2 車線以上の車線を有する道路に面する地域	65 以下	60 以下
C	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 工業地域 これらに接する地先、水面	一般地域	60 以下	50 以下
		車線を有する道路に面する地域	65 以下	60 以下
幹線交通を担う道路に近接する空間 (高速自動車国道、一般国道、都道府県道、市町村道 (4 車線以上))		2 車線以下の車線を有する道路 (道路端から 15m の範囲)	70 以下	65 以下
		2 車線を超える車線を有する道路 (道路端から 20m の範囲)		

参照：環境基準と地域類型の当てはめ（平成 12 年 3 月 31 日東京都告示第 420 号）

(イ) 身近な音の目安

(単位：dB)

音量	目安	音量	目安
120	飛行機のエンジン近く	60	走行中の自動車内・普通の会話
110	自動車の警笛 (前方 2 m)	50	静かな事務所
100	電車が通るときのガード下	40	深夜の市内・図書館
90	怒鳴り声、騒々しい工場内	30	ささやき声
80	走行中の地下鉄車内	20	木の葉の触れ合う音
70	掃除機・騒々しい事務所		

(ウ) 環境騒音調査結果

(単位：dB)

	調 査 地 点	朝	昼	夕	測 定 月 日
		6時 ～ 12時	12時 ～ 17時	17時 ～ 22時	
1	伊奈平四丁目 32 番地 (海道緑地保全地域南付近)	44.5	46.0	44.5	12.26
2	伊奈平五丁目 84 番地 (伊奈平公園付近)	57.7	58.5	55.3	12.26
3	伊奈平四丁目 20 番地 (海道緑地保全地域東付近)	63.4	59.8	59.1	12.26
4	伊奈平三丁目 19 番地 (ダイエー武蔵村山店東付近)	55.9	58.0	54.2	12.26
5	伊奈平二丁目 55 番地 (伊奈平自治会館付近)	46.6	52.7	49.1	12.26
6	伊奈平二丁目 29 番地 (資源リサイクルセンター付近)	57.4	57.5	56.3	12.26
7	大南一丁目 116 番地 (西大南樹林公園西付近)	63.9	54.7	57.0	12.19
8	大南一丁目 82 番地 (市立第四中学校西付近)	64.0	65.6	49.9	12.19
9	大南五丁目 1 番地の 69 (大南地区学習等供用施設付近)	55.6	52.6	54.7	12.19
10	大南五丁目 48 番地 (都立上水高校北付近)	48.7	42.2	39.7	12.19
11	中原四丁目 3 番地の 5 (経塚向公園東付近)	43.5	44.2	46.9	12.26
12	残堀三丁目 1 番地 (横田基地北付近)	48.9	39.0	48.5	12.26
13	残堀一丁目 60 番地の 3 (残堀・伊奈平地区学習等供用施設付近)	50.2	47.8	52.4	12.26
14	残堀五丁目 86 番地 (市立第五中学校南付近)	45.6	50.1	43.8	12.26
15	残堀五丁目 28 番地 (残堀自治会館付近)	51.2	42.9	44.3	12.26
16	伊奈平一丁目 26 番地 (バンテック物流センター南付近)	57.7	58.9	55.4	12.26
17	三ツ藤一丁目 77 番地 (三ツ藤南公園付近)	47.2	50.2	45.1	12.19
18	榎三丁目 46 番地の 2 (中久保歩道橋南)	42.3	44.7	42.2	12.19
19	榎二丁目 77 番地の 3 (新海道児童遊園付近)	41.8	38.7	37.6	12.19
20	学園五丁目 23 番地 (東京経済大学付近)	45.9	49.2	41.9	12.19
21	学園一丁目 91 番地 (市立第九小学校北付近)	45.9	46.4	50.8	12.19
22	学園一丁目 70 番地の 5 (学園児童遊園付近)	44.4	41.9	45.1	12.19
23	大南二丁目 79 番地の 1 (市立第四中学校付近)	53.6	52.7	51.8	12.19
24	緑が丘 1460 番地 (市立小中一貫校村山学園北付近)	52.7	50.6	49.7	12.19
25	学園四丁目 6 番地の 1 (市立雷塚小学校付近)	51.9	55.6	54.7	12.19
26	緑が丘 1460 番地 (オカネ塚公園付近)	52.7	51.2	53.7	12.19
27	大南五丁目 55 番地の 1 (大南公園付近)	64.5	56.0	58.7	12.19
28	中原二丁目 25 番地 (中原地区集会所北付近)	48.7	51.0	56.2	12.26
29	中原二丁目 21 番地の 4 (中原公園付近)	45.6	52.2	51.9	12.26
30	岸一丁目 20 番地の 4 (大道児童遊園付近)	55.6	50.4	52.5	12.26

	調 査 地 点	朝	昼	夕	測 定 月 日
		6時 ～ 12時	12時 ～ 17時	17時 ～ 22時	
31	三ツ藤三丁目 27 番地 (山王森公園付近)	42.3	47.2	44.4	12.26
32	三ツ木一丁目 42 番地 (電話交換局北付近)	44.5	41.3	44.1	12.26
33	三ツ木三丁目 22 番地 (宿薬師堂境内付近)	54.7	56.3	54.8	12.26
34	三ツ木一丁目 7 番地 (峰自治会館付近)	48.9	60.7	58.1	12.26
35	本町二丁目 77 番地の 1 (中久保図書館付近)	55.1	53.1	55.8	12.26
36	本町一丁目 19 番地の 1 (市民会館東付近)	39.7	41.8	42.3	12.19
37	本町二丁目 36 番地の 2 (第五分団車庫付近)	67.5	63.5	64.2	12.26
38	本町四丁目 40 番地 (市立第三老人福祉館付近)	57.0	50.3	48.7	12.19
39	中央二丁目 125 番地 (お伊勢の森神明社西付近)	45.0	46.6	45.1	12.19
40	神明一丁目 57 番地 (中砂橋付近)	39.2	41.7	38.1	12.19
41	中央三丁目 31 番地 (萩の尾薬師堂北付近)	57.0	49.9	51.8	12.19
42	中藤二丁目 37 番地 (眞福寺付近)	49.3	50.7	56.1	12.19
43	神明四丁目 109 番地の 1 (市立第三中学校東付近)	46.8	44.5	45.3	12.19
44	神明二丁目 86 番地 (神明社境内付近)	49.6	47.4	48.9	12.19
45	神明二丁目 121 番地の 1 (大橋南付近)	44.0	54.5	45.3	12.19
46	岸二丁目 31 番地の 1 (須賀神社境内付近)	62.0	41.9	55.5	12.26
47	岸三丁目 47 番地の 7 (市立第四老人福祉館付近)	50.1	46.3	41.3	12.26
48	本町五丁目 45 番地 (野山北公園冒険コース西付近)	42.8	39.8	40.2	12.26
49	本町五丁目 31 番地の 1 (野山北公園プール付近)	44.3	45.6	46.2	12.26
50	本町五丁目 29 番地の 1 (かたくりの湯付近)	50.6	53.5	52.1	12.26
51	中藤二丁目 28 番地 (番太池付近)	44.6	47.2	43.1	12.19
52	中藤三丁目 63 番地の 3 (防火水槽付近)	48.3	35.8	50.0	12.19
53	中藤四丁目 18 番地の 1 (第一分団車庫付近)	66.3	67.2	64.8	12.19
54	中藤五丁目 55 番地 (大橋北付近)	48.4	51.5	56.3	12.19
55	榎一丁目 1 番地 (武蔵村山病院北付近)	54.7	56.9	54.1	12.19
	平 均	57.2	55.9	54.4	

2 主要幹線道路環境調査

環境調査の一環として、市内の幹線道路を通過する自動車による騒音、振動、大気汚染を調査し、環境基本法第 16 条第 1 項の適合状況並びに付近の環境に与える影響の実態を把握し、今後の環境対策資料としています。

(ア) 主要幹線道路沿道調査結果

調査項目			騒音(等騒音レベル) (dB)		振動(上端値) (dB)		二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	交通量 (台)
道路	調査地点 (調査日)	区分	昼 6時 ～22時	夜 22時 ～6時	昼 8時 ～19時	夜 19時 ～8時			
青梅街道	第一分団 車庫付近 (H29.11.14～15)	調査結果	68	63	40	33	0.001	0.033	7,734
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
	第六分団 車庫付近 (H29.11.14～15)	調査結果	70	67	33	28	0.021	0.022	15,582
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
新青梅街道	武蔵村山 郵便局付近 (H29.11.16～17)	調査結果	71	67	50	44	0.019	0.010	39,660
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
	桃ノ木 歩道橋付近 (H29.11.16～17)	調査結果	76	73	48	41	0.020	0.012	41,922
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
主要地方道 第55号線	大南一丁目 バス停付近 (H29.11.15～16)	調査結果	70	66	43	39	0.014	0.033	11,916
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	70以下	65以下	—	—	—
主要地方道 第59号線	三ツ藤住宅 東バス停付近 (H29.11.15～16)	調査結果	66	61	39	36	0.020	0.022	16,620
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
	榎文明堂東京武蔵 村山工場東付近 (H29.11.15～16)	調査結果	68	65	40	39	0.025	0.023	20,802
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	70以下	65以下	—	—	—
一般都道 第162号線	第七分団 車庫付近 (H29.11.14～15)	調査結果	70	67	35	31	0.022	0.022	15,600
		環境基準	70以下	65以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	65以下	60以下	—	—	—
江戸街道	東京日産自動車 販売(株)北付近 (H29.11.16～17)	調査結果	63	59	36	33	0.012	0.021	11,910
		環境基準	65以下	60以下	—	—	0.06以下	0.10以下	—
		要請限度	75以下	70以下	70以下	65以下	—	—	—

※ 調査結果が要請限度を超える場合については、道路を管理している東京都に対し改善の要請を行います。

(イ) 道路沿道調査に伴う一般大気調査結果

調査地点	調査日	調査項目	
		二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)
市役所	平成29. 11. 14~11. 17	0. 016	0. 022
三ツ木地区学習等供用施設		0. 013	0. 020
大南地区学習等供用施設		0. 016	0. 021
残堀・伊奈平地区学習等供用施設		0. 017	0. 02
環境基準		0. 06以下	0. 10 以下

備考

- 1 二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の数値は1時間値の1日平均値です。
- 2 「環境基準」とは、環境基本法（平成5年法律第91号）に基づく環境基準です。
- 3 「要請限度」とは、騒音規制法（昭和43年法律第98号）の自動車騒音及び振動規制法（昭和51年法律第64号）道路交通振動に係る要請限度です。

(ウ) 各調査方法

- ① 騒音は、JIS Z 8731に定める方法で正時毎に10分間24時間測定しています。
- ② 振動は、JIS Z 8735に定める方法で正時毎に10分間24時間測定しています。
- ③ 二酸化窒素は、JIS B 7953に定める方法の吸光光度法で24時間連続測定しています。
- ④ 浮遊粒子状物質は、JIS B 7954に定める方法のベータ線吸収法で24時間連続測定しています。
- ⑤ 交通量は、ハンドカウンターにより正時毎に10分間24時間測定し、1時間値に換算して24時間の交通量としています。

3 自動車騒音常時監視調査

騒音規制法第 18 条第 1 項の規定に基づき、武蔵村山市内における主要幹線道路を対象とし、自動車騒音の状況の常時監視を実施し、評価対象路線の環境基準の達成状況の把握を行い、今後の総合的な道路環境の各種施策への反映を図る資料としています。

(ア) 調査方法

- ① 騒音の測定は、JIS C 1509-1に定める仕様に適合する測定機を用いて測定しています。
- ② 面的評価は、評価区間ごとに、評価区間内に存在する住居等の属性、地域の残留騒音について調査しています。

(イ) 自動車騒音常時監視調査結果

- ① 騒音測定地点 武蔵村山市三ツ木五丁目 23 番地
- ② 評価対象路線 新宿青梅線
中藤五丁目 48 番地の 2 から本町一丁目 7 番地まで及び本町二丁目 1 番地から岸二丁目 7 番地の 1 までの 1 地点
- ③ 調査日 平成 29 年 11 月 7 日から 8 日まで

<調査結果>

	昼夜とも基準値以下		昼のみ基準値以下		夜のみ基準値以下		昼夜とも基準値超過	
	戸数 (戸)	割合 (%)	戸数 (戸)	割合 (%)	戸数 (戸)	割合 (%)	戸数 (戸)	割合 (%)
全戸数 (1,537 戸)	1,530	99.5	1	0.1	2	0.1	4	0.3
近接空間 (651 戸)	647	99.4	1	0.1	0	0.0	3	0.5
非近接空間 (887 戸)	883	99.7	0	0.0	2	0.2	1	0.1
環境基準 (昼間 70dB 以下、夜間 65dB 以下)								

4 横田基地航空機騒音調査

横田基地の航空機騒音の実態を把握するため、市立第十小学校屋上に航空機騒音測定器を設置し、測定を行っています。

また、東京都は第二老人福祉館屋上に航空機騒音測定器を設置し、測定を行っており、環境基準の類型を当てはめる地域の指定は、4 飛行場（東京国際空港、横田飛行場、厚木飛行場、調布飛行場）について行っています。

なお、平成 25 年度から環境基準の評価指標は WECPNL から、エネルギー積分を行う評価指標の Lden が採用されました。

(ア) 旧環境基準(WECPNL)

旧環境基準の加重等価平均感覚騒音レベル(WECPNL)とは、航空機騒音のうるさを評価する尺度で、単位はdBとなります。航空機の最大騒音レベルを用いて簡易に算出できるようにしたもので、最大騒音レベルのパワー平均値に、夕方の機数、夜間の機数による補正を加えて算出します。

地域類型	類型を当てはめる地域	基準値 (dB) (WECPNL)	達成期間	改善目標
I	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 及び準住居地域 並びに用途指定の定めのない地域	70 dB以下	1 東京国際空港は空港整備法に定める第1種空港に該当し、「10年を超える期間内に可及的すみやかに」達成することとする。 2 横田飛行場及び厚木飛行場は、空港整備法に定める空港には該当しないが、飛行場の使用実態等から第1種空港に準じるものとし、「10年を超える期間内に可及的すみやかに」達成することとする。 3 調布飛行場は、空港整備法に定める空港に該当しないが、第3種飛行場に準じるものとして「直ちに」達成することとする。	達成期間が「10年を超える期間内に可及的すみやかに」と定められているものについての改善目標については下記のとおりです。 1 5年以内に、85WECPNL未滿とすること又は85WECPNL以上の地域において屋内で65WECPNL以下にすること。 2 10年以内に、75WECPNL未滿とすること又は75WECPNL以上の地域において屋内で60WECPNL以下にすること。
II	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 及び工業地域	75 dB以下		

(イ) 環境基準(Lden)

平成19年に「航空機騒音に係る環境基準について(昭和48年12月環境庁告示第154号)」の一部改正が行われ、平成25年度から従来のWECPNLに代わり、新たな環境基準としてLden(エルデン)が採用されました。

なお、市では平成25年10月1日からLden対応の航空機騒音測定器を導入し、常時測定を行いました。

地域 類型	類型を当てはめる地域	基準値 (dB)	
		Lden (H25. 4. 1 から)	WECPNL (H25. 3. 31 まで)
I	第1種低層住居専用地域 第2種低層住居専用地域 第1種中高層住居専用地域 第2種中高層住居専用地域 第1種住居地域 第2種住居地域 及び準住居地域 並びに用途地域の定めのない地域	57 dB以下	70 dB以下
II	近隣商業地域 商業地域 準工業地域 及び工業地域	62 dB以下	75 dB以下

(ウ) 達成期間等

環境基準は、公共用飛行場等の周辺地域においては、飛行場の区分ごとに次表の達成期間の欄に掲げる期間で達成され、又は維持されるものとする。この場合において、達成期間が5年を超える地域においては、中間的に同表の改善目標の欄に掲げる目標を達成しつつ、段階的に環境基準が達成されるようにするものとしています。

飛行場の区分			達成期間	改善目標
新設飛行場			直ちに	—
既設飛行場	第三種空港及びこれに準ずるもの			
	第二種空港(福岡空港を除く。)	A	5年以内	—
		B	10年以内	5年以内に、70 dB未満とすること又は70 dB以上の地域において屋内で50 dB以下とすること。
	成田国際空港			
第一種空港(成田国際空港を除く。)及び福岡空港		10年をこえる期間内に可及的速やかに	① 5年以内に、70 dB未満とすること又は70 dB以上の地域において屋内で50 dB以下とすること。 ② 10年以内に、62 dB未満とすること又は62 dB以上の地域において屋内で47 dB以下とすること。	

(エ) 横田基地航空機騒音調査結果①

	平成25年度			平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	飛行回数 (回)	WECPNL (dB)	Lden (dB)	飛行回数 (回)	Lden (dB)	飛行回数 (回)	Lden (dB)	飛行回数 (回)	Lden (dB)	飛行回数 (回)	Lden (dB)
4月	187	60.6	—	191	48.3	233	49.0	259	47.5	105	45.9
5月	137	63.1	—	335	49.5	286	49.2	247	47.5	218	46.2
6月	141	59.5	—	321	48.9	215	47.4	260	48.2	147	54.9
7月	142	61.1	—	301	47.5	168	45.9	164	45.1	110	43.9
8月	156	65.1	—	238	46.4	151	43.8	168	50.6	92	44.8
9月	134	65.0	—	147	46.5	127	45.1	※2 61	※2 45.5	163	50.0
10月	139	—	45.7	216	46.9	※1 186	※1 46.6	164	45.6	109	44.0
11月	137	—	45.0	246	49.9	110	47.1	136	46.0	169	49.3
12月	235	—	47.8	192	50.8	123	45.1	197	47.9	175	48.6
1月	301	—	48.6	231	48.3	268	49.4	149	45.9	221	48.3
2月	350	—	49.4	208	48.4	275	50.4	112	44.9	184	47.2
3月	349	—	48.3	260	49.7	307	49.9	221	46.7	156	47.5
1年間の評価	2,408	62.2	46.1	2,886	48.4	2,449	47.9	2,138	47.1	1,849	48.7

※1 平成27年10月7日から9日までの間欠測であったため、集計していない。

※2 平成28年9月22日から29日までの間欠測であったため、集計していない。

(オ) 横田基地航空機騒音調査結果②

		平成 25 年度 WECPNL	平成 25 年度 Lden	平成 26 年度 Lden	平成 27 年度 Lden	平成 28 年度 Lden	平成 29 年度 Lden
調査日数 (日)		179	123	365	※ ² 363	※ ³ 357	365
飛行回数 (回)	7時～19時	750	1,325	2,478	※ ² 2,174	※ ³ 1,875	1,552
	19時～22時	138	159	342	※ ² 251	※ ³ 198	246
	22時～7時	9	27	66	※ ² 24	※ ³ 65	51
	合計	897	1,511	2,886	※ ² 2,449	※ ³ 2,138	1,849
※ ¹ 騒音レベル別 飛行回数 (回)	70dB 以上	717	—	—	—	—	—
	80dB 以上	164	—	—	—	—	—
	90dB 以上	16	—	—	—	—	—
最高音 (dB)		93.7	—	—	—	64.2	67.7
1年間の平均値 (dB)		62.2	46.1	48.4	47.9	47.1	48.7

※¹ 騒音レベル別飛行回数 (回) は、測定方法の変更に伴い算出不可となり、平成25年9月30日までの数値としています。

※² 平成27年10月7日から9日までの間欠測であったため、集計していない。

※³ 平成28年9月22日から29日までの間欠測であったため、集計していない。

5 立川飛行場等航空機騒音調査

立川飛行場等の航空機騒音の実態を把握するため、大南地区学習等供用施設屋上に航空機騒音測定器を設置し、年2回(14日間)、大南地区学習等供用施設上空を通過する立川飛行場等の航空機による騒音の測定を行っています。

なお、平成25年度から環境基準の評価指標はWECPNLから、エネルギー積分を行う評価指標のLdenが採用されました。

〈立川飛行場等航空機騒音調査結果〉

単位(dB)

年 度	調査月日	WECPNL	Lden	飛行回数(回)	最高音
平成25年度	7月28日～8月3日	57.2	—	132	60.2
	11月8日～9日	—	48.3	137	52.2
平成26年度	7月28日～8月3日 9月24日～30日	—	49.2	350	54.3
平成27年度	7月28日～8月3日 9月17日～23日	—	44.7	163	50.8
平成28年度	8月3日～9日 9月30日～10月6日	—	46.2	244	51.1
平成29年度	8月2日～8日 9月28日～10月4日	—	45.0	181	76.3

《 大気関係 》

1 酸性雨調査

工場、自動車等からの排ガス中に含まれる硫黄酸化物、窒素酸化物等の大気汚染物質が大気中・雨滴中で酸化され、硫酸・硝酸等に変化し、雨水に取り込まれてできた酸性度の強い雨のことをいいます。

酸性の程度は、pH（水素イオン濃度）で表され、pH7 を中心に、低いと酸性、高いとアルカリ性となります。

通常の雨水には大気中の二酸化炭素が溶け込んでいるため pH7 より低い値を示します。

大気中の二酸化炭素が十分に溶け込んだ場合の pH が 5.6 であるため、一般的にはこれより低い雨水を酸性雨と呼んでいます。

酸性雨は、湖沼や河川を酸性にし、水生生物を死滅させたり、土壌が酸性化し、森林を枯らしてしまうこともあります。また、建物等を腐食する被害も引き起こします。

市では平成3年度から、月に一度市役所屋上で雨水を採水し、パーソナル pH メータを用い簡易分析を行っています。

〈酸性雨調査結果〉

(単位：pH)

年 度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
年 平 均	6.8	6.3	6.8	8.1	8.3

2 二酸化窒素調査

自動車、工場などで燃料の燃焼に伴って排出され燃料中の窒素分や空気中の窒素ガスが酸化され、生成されます。

排出される窒素酸化物の 90%以上は一酸化窒素 (NO) ですが、空気中で酸化され二酸化窒素となります。

窒素酸化物は、72%が自動車等から、28%が工場や家庭から排出されています。

高濃度のものは、赤褐色の気体で刺激臭をもち、呼吸器に悪影響を与えるといわれています。また、水に溶けやすく、水と反応して硝酸や亜硝酸を生ずることから酸性雨の原因ともなっています。

(ア) 環境基準

公害対策基本法第9条（現環境基本法第16条）の規定のに基づき、昭和53年7月11日に環境庁が告示（告示38号）したもので、大気汚染に係る環境上の条件のうち、二酸化窒素に係る環境基準は、1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下です。

また、環境基準は、工業専用地域、車道、その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については適用しません。

(イ) 二酸化窒素濃度調査（アルカリろ紙方式）

平成25年12月までは、簡易調査を行っていたため単位をmg/日/100cm³で表示していましたが、平成26年1月から検体の採取期間を短縮する等の改善により、環境基準の単位であるppmで表示しています。

また、平成27年度までは、各調査地点に二酸化窒素採取器内にアルカリろ紙を設置し、大気中の二酸化窒素を吸着させたものを採取して、分析委託により得た値を表示していましたが、平成28年度から道路沿道調査に伴う一般大気調査のバックグラウンドの値を表示しています。

<二酸化窒素濃度調査結果>

（単位：mg/日/100cm³）

年 度	市 役 所	三ツ木地区 学習等供用施設	残堀・伊奈平 学習等供用施設	大南地区 学習等供用施設	平 均
平成25年度 (12月まで)	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003	<0.003

（単位：ppm）

年 度	市 役 所	三ツ木地区 学習等供用施設	残堀・伊奈平 学習等供用施設	大南地区 学習等供用施設	平 均
平成25年度 (1月から)	0.011	0.011	0.013	0.010	0.011
平成26年度	0.012	0.014	0.012	0.017	0.014
平成27年度	0.016	0.017	0.016	0.015	0.016
平成28年度	0.014	0.017	0.011	0.010	0.013
平成29年度	0.016	0.013	0.017	0.016	0.016

3 ダイオキシン類調査

ダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾーパラージオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）の総称をいいます。PCDDは75種類、PCDFは135種類、コプラナーPCBは十数種類の仲間があります。これらの内、毒性があるとみなされているのは29種類です。

ダイオキシン類は意図的に作られるものではなく、主にごみ焼却に伴う副生成物です。その他にも製鋼用電気炉、タバコの煙、自動車の排ガスなどの様々な発生源があります。

また、ダイオキシン類の人体への影響については、普段、私たちが生活している分には影響はないとされていますが、事故などの高濃度の暴露の際の知見からは、発がん性があるとされています。

このようなことから、国ではダイオキシンの発生を抑制するため平成11年7月16日に「ダイオキシン類対策特別措置法」を制定し、平成12年1月15日に施行しました。

市では市内のダイオキシン類の汚染状況を把握するため、一般環境中の大気、土壌、河川、地下水のダイオキシン類の濃度調査を行なっていました。しかし、調査結果が数年継続して環境基準を大幅に下回っていたことから、平成16年度から土壌、地下水の調査を、また、平成29年度から大気、河川の調査を中止しています。

(ア) 環境基準

大 気	水 質	土 壌
0.6pg - TEQ/m ³ 以下	1pg - TEQ/l 以下	1,000pg - TEQ/g 以下

※土壌については250 pg - TEQ/g 以上の場合は、必要な調査を実施します。

(イ) ダイオキシンの耐容一日摂取量（TDI）

ダイオキシンの耐容一日摂取量（TDI）は、生涯にわたって継続的に摂取したとしても健康に影響を及ぼす恐れがない一日当たりの摂取量で、体重1kg当たり4pg-TEQ以下です。

わが国では、体重1kg当たり一人一日の摂取量は約1.35pg-TEQと推定されます（平成15年度厚生省調べ）。内訳は、大気から約0.019pg-TEQ、土壌から約0.0052pg-TEQ、食品から約1.33pg-TEQといわれています。

(ウ) 一般大気中ダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/m³)

調査年度		調査結果			平均	環境基準
		武蔵村山市役所屋上	残堀・伊奈平地区 学習等供用施設	大南地区学習 等供用施設		
平成 25 年度	8/14～8/21	0.015	0.021	0.015	0.022	0.6 以下
	2/6～2/13	0.015	0.012	0.014		
平成 26 年度	8/20～8/27	0.016	0.019	0.016	0.015	
	2/5～2/12	0.014	0.014	0.011		
平成 27 年度	8/20～8/27	0.0079	0.018	0.011	0.015	
	2/5～2/12	0.019	0.018	0.018		
平成 28 年度	8/24～8/31	0.013	0.015	0.015	0.014	
	2/2～2/9	0.013	0.010	0.016		
平成 29 年度	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-		

(エ) 一般河川水中ダイオキシン類調査結果

(単位：pg-TEQ/l)

調査年度		調査結果			平均	環境基準
		残堀川 (伊奈平 2-20 付近)	空堀川 (神明 4-30 付近)			
平成 25 年度	7/30	0.130	0.110	0.120	1 以下	
平成 26 年度	6/18	0.100	0.091	0.096		
平成 27 年度	9/15	0.14	0.13	0.135		
平成 28 年度	9/28	0.087	0.11	0.099		
平成 29 年度	-	-	-	-		

※平成 28 年度の残堀川調査地点は、残堀 5-114 付近となっている。

4 光化学スモッグ注意報等発令状況

自動車や工場などから排出される窒素酸化物と炭化水素が、太陽の強い紫外線を受けると光化学反応を起こし、オゾンなどの光化学オキシダント（酸化性物質）を発生させます。

気象条件によっては、この光化学オキシダントがたまり、白くもやがかったような状態になることがあります。この状態を「光化学スモッグ」と呼んでいます。

光化学スモッグは4月から10月にかけての日差しが強くて気温の高い、風の弱い日に発生します。特に、太平洋高気圧に覆われる7～8月は気温も高く紫外線も強く安定した天気が続くため、光化学スモッグが発生しやすい気象条件となります。

市では、光化学スモッグ注意報等が発令された際、防災行政無線等で周知しています。

(ア) 光化学スモッグの症状と対策

光化学オキシダントの影響を受けやすいのは、外気に直接接触する目や呼吸器です。主な症状としては目の痛み、咳、気分の悪さなどが挙げられ、まれに重症化すると呼吸困難、手足のしびれ、めまい、頭痛、発熱、嘔吐、意識障害などの症状を引き起こすこともあります。

身体影響には個人差が大きいので、周囲の人たちが何となくでも自分だけ症状が表れる可能性もあり、幼児、子供、病弱な人、特にアレルギー性の結膜炎や喘息などの持病がある人は一層の注意が必要です。

光化学オキシダントの影響はマスクなどでは予防できないため、光化学スモッグ注意報が発令されたら、注意報解除の放送等があるまで、屋外での作業等は控え、屋内で過ごしてもらえよう周知しています。

(イ) 発令基準

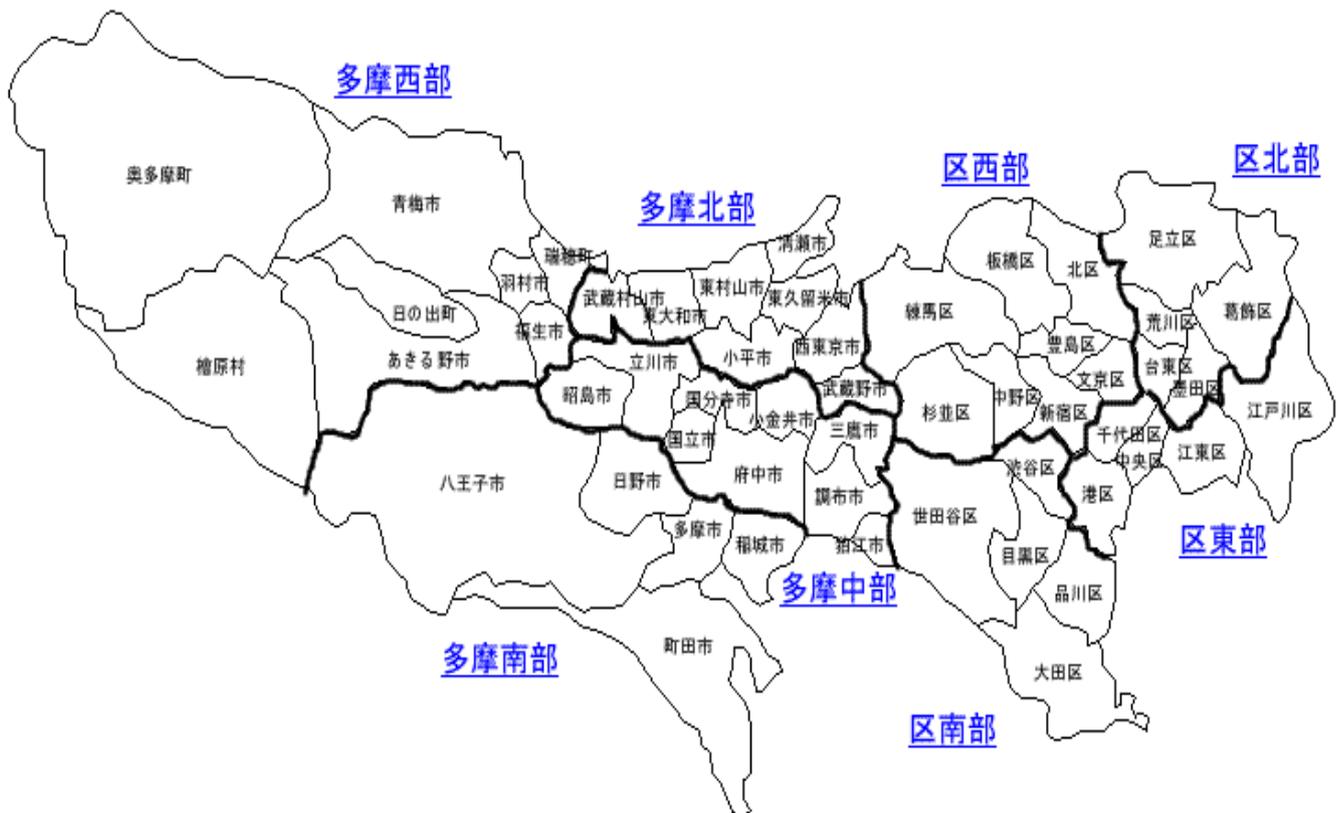
(単位：ppm)

学校情報	予 報	注 意 報	警 報	重大緊急報
0.10 以上	高濃度が予想される時	0.12 以上	0.24 以上	0.40 以上

(ウ) 光化学スモッグ注意報等発令状況

年 度	学校情報 発令日数	予報 発令日数	注意報 発令日数	警報 発令日数	オキシダント最高濃度
平成 25 年度	※ 24	11	12	0	※測定点：練馬区関町 (H25. 8. 10 17 時) 小金井市本町 (H25. 8. 10 16 時) 測定値：0. 188ppm
平成 26 年度	※ 26	5	8	0	※測定点：渋谷区宇田川町 (H26. 6. 1 15 時) 測定値：0. 173ppm
平成 27 年度	※ 22	8	11	0	※測定点：練馬区石神井町 (H27. 7. 26 15 時) 測定値：0. 193ppm
平成 28 年度	9	0	3	0	※測定点：中央区晴海 (H28. 7. 1 16 時) 測定値：0. 155ppm
平成 29 年度	7	4	2	0	※測定点：狛江市中和泉 (H29. 7. 8 13 時) 測定値：0. 208ppm

※ 東京都環境局ホームページ「光化学スモッグ発生状況」から引用



《 河川等の水質関係 》

1 残堀川調査

残堀川は、瑞穂町にある都立狭山自然公園内の狭山池を水源とし、瑞穂町、武蔵村山市、昭島市及び立川市を流れ、多摩川に合流する延長 14.5km の 1 級河川です。

流域面積は、34.7 k m²で、残堀川に流入する支流は、瑞穂町で 4 河川（狭山谷川・夕日台川・峰田川・滝田川）、武蔵村山市で 1 河川（横丁川）、立川市で 3 用水（立川堀分水支流・昭和用水・昭和用水支流）、3 湧水（富士見マンション裏弁天・東京都農林総合研究センター・JR 中央線鉄橋北側）があります。

(ア) 残堀川水質調査会

残堀川の汚濁実態を把握し、浄化推進の資料とするため、2 市 1 町（武蔵村山市、立川市、瑞穂町）で組織され、毎年、残堀川の上流部、中流部、下流部において、年 4 回の定期水質調査と年 1 回の水生生物調査の合同調査を実施しています。

また、この調査結果を基に報告書を作成して、関係行政機関（多摩環境事務所、北多摩北部建設事務所、西多摩建設事務所）に対し、河川環境がより良くなるように要望活動を行っています。

毎年、定期水質調査を 4 回、水生生物調査を 1 回実施し、調査結果を基に要望書を作成し、多摩環境事務所、北多摩北部建設事務所、西多摩建設事務所に対し、要望活動を行っています。

残堀川の現状は、河川整備も進み、水質については、下水道の普及とともに以前と比べ改善されていますが、その一方で中流域では渇水していることが多く見受けられ、水量不足が大きな課題となっているため、今後も水量確保を中心に要望を行っていきます。

(イ) 残堀川水質定期調査結果 (A 類型)

(単位 : mg/l (水素イオン濃度 pH、大腸菌群数 MPN/100ml))

	調査項目	富士塚橋				立川市境				環境基準
		6/28	8/2	10/4	12/13	6/28	8/2	10/4	12/13	
生活環境項目	水素イオン濃度	—	7.4	7.7	—	—	8.0	—	—	6.5~8.5
	生物化学的酸素要求量	—	1.3	1.6	—	—	1.5	—	—	2 以下
	浮遊物質	—	3	2	—	—	3	—	—	25 以下
	溶存酸素量	—	6.5	7.0	—	—	9.0	—	—	7.5 以上
	大腸菌群数	—	110,000	79,000	—	—	240,000	—	—	1,000 以下
健康項目	カドミウム	—	<0.0003	<0.0003	—	—	<0.0003	—	—	0.003 以下
	全シアン	—	<0.02	<0.02	—	—	<0.02	—	—	不検出
	ポリ塩化ビフェニル	—	<0.0005	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	不検出
	鉛	—	<0.001	<0.001	—	—	<0.001	—	—	0.01 以下
	六価クロム	—	<0.01	<0.01	—	—	<0.01	—	—	0.05 以下
	ヒ素	—	<0.001	<0.001	—	—	<0.001	—	—	0.01 以下
	総水銀	—	<0.0005	<0.0005	—	—	<0.0005	—	—	0.0005 以下
その他	全窒素	—	1.23	3.89	—	—	1.17	—	—	
	全リン	—	0.043	0.038	—	—	0.048	—	—	
	陰イオン界面活性剤	—	0.02	<0.02	—	—	<0.02	—	—	

※ 「—」については、水量不足により欠測となった。

2 空堀川調査

空堀川は、武蔵村山市にある野山北公園の丘陵地帯を水源とし、武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市を流れ、柳瀬川に合流する延長約 15km の東京都 1 級河川です。

流域面積は、26.8 k m²で、空堀川に流入する支流は、東大和で 1 河川（奈良橋川）、あります。

(ア) 空堀川水環境確保対策会

空堀川水環境確保対策会（以下「対策会」という。）は、流域 4 市（武蔵村山市、東大和市、東村山市、清瀬市）で組織され、空堀川の汚濁実態を把握し、浄化対策に資するため、毎年、各市上流部及び下流部において年 4 回の定期調査と各市下流部において年 1 回の通日調査を実施しています。

対策会では年 8 回の会議を開き、空堀川水環境確保対策要望活動に係る検討会（以下「検討会」という。）及び親と子の環境教室について議論しました。

検討会の中で、河川水質調査結果を基に作成した報告書を関係行政機関（東京都環境局、多摩環境事務所）に対して提示し、河川環境がより良くなるように要望活動を行いました。合わせて、年々減少傾向にある河川水量について、水量確保に関する抜本的な対策の推進、雨水貯留・浸透対策の推進、河川調査の推進について検討し、要望しました。

また、親と子の環境教室は参加者の交流を図るためにも流域 4 市合同で、「がすてな一に」及び「東京都水の科学館」で行いました。

今後も、空堀川の水質調査及び要望活動を実施し、水質浄化及び水量の確保を図りながら、快適な水辺環境の創出を目指していきます。

(イ) 空堀川水質定期調査結果 (A 類型)

(単位 : mg/l (水素イオン濃度 pH、大腸菌群数 MPN/100ml))

	調査項目	砂野橋				念仏塚橋				環境基準
		5/11	8/24	11/16	2/7	5/11	8/24	11/16	2/7	
生活環境項目	水素イオン濃度	—	8.5	—	—	—	8.2	7.3	—	6.5~8.5
	生物化学的酸素要求量	—	0.6	—	—	—	0.5	<0.5	—	2 以下
	浮遊物質	—	3	—	—	—	2	1	—	25 以下
	溶存酸素量	—	9.6	—	—	—	8.3	9.5	—	7.5 以上
	大腸菌群数	—	4900	—	—	—	3300	2200	—	1,000 以下
健康項目	カドミウム	—	<0.0003	—	—	—	<0.0003	<0.0003	—	0.003 以下
	全シアン	—	<0.02	—	—	—	<0.02	<0.02	—	不検出
	ポリ塩化ビフェニル	—	<0.0005	—	—	—	<0.0005	<0.0005	—	不検出
	鉛	—	<0.001	—	—	—	<0.001	<0.001	—	0.01 以下
	六価クロム	—	<0.02	—	—	—	<0.02	<0.02	—	0.05 以下
	ヒ素	—	<0.001	—	—	—	<0.001	<0.001	—	0.01 以下
	総水銀	—	<0.0005	—	—	—	<0.0005	<0.0005	—	0.0005 以下
その他	全窒素	—	2.80	—	—	—	2.75	1.60	—	
	全リン	—	0.012	—	—	—	0.016	0.033	—	
	陰イオン界面活性剤	—	<0.02	—	—	—	<0.02	<0.02	—	

※「—」については、水量不足により欠測となった。

※大腸菌群数については参考数値である。

3 その他の河川調査

〈久保の川、谷戸川、入谷川、横丁川、河川調査結果〉

(単位：mg/l (水素イオン濃度のみ pH))

地点	項目	調査項目	調査日				環境基準
			5/11	8/24	11/16	2/7	
久保の川 (後ヶ谷戸通り終点)	生活環境項目	水素イオン濃度	7.4	7.8	7.5	—	6.5～8.5
		生物化学的酸素要求量	<0.5	0.7	<0.5	—	2以下
		浮遊物質	2	1	<1	—	25以下
		溶存酸素量	6.5	7.8	9.3	—	7.5以上
谷戸川 (田島橋)	生活環境項目	水素イオン濃度	8.1	7.8	7.1	—	6.5～8.5
		生物化学的酸素要求量	0.5	1.0	<0.5	—	2以下
		浮遊物質	2	2	2	—	25以下
		溶存酸素量	11.6	9.3	10.4	—	7.5以上
入谷川 (鍛冶ヶ谷橋)	生活環境項目	水素イオン濃度	8.4	7.7	7.5	—	6.5～8.5
		生物化学的酸素要求量	0.5	0.5	<0.5	—	2以下
		浮遊物質	1.0	2	2	—	25以下
		溶存酸素量	9.8	8.3	10.3	—	7.5以上
横丁川 (三ツ木交番下流)	生活環境項目	水素イオン濃度	8.8	8.1	7.7	—	6.5～8.5
		生物化学的酸素要求量	<0.5	<0.5	<0.5	—	2以下
		浮遊物質	<1	1	1	—	25以下
		溶存酸素量	13.3	9.0	11.3	—	7.5以上

※「—」については、水量不足により欠測となった。

4 地下水汚染調査

かつて地下水汚染は、浅井戸で細菌汚染、クロムやシアンによる汚染が主でしたが、環境庁が昭和 57 年度及び 58 年度に実施した地下水汚染実態調査の結果、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等の有機塩素系化合物による広範な汚染が認められました。

このため、都では、地下水の汚染の防止を図るため、水質汚濁防止法に基づき、トリクロロエチレンなどを使用している事業場に対して、有害物質の地下浸透防止の規制や指導を行なっています。

市では昭和 60 年度から毎年度 5 か所を選定し調査を行なっています。（四塩化炭素については平成 2 年度から実施）

<環境基準>

(単位：mg/ℓ)

有機塩素系化合物	環境基準
トリクロロエチレン	0.01 mg/ℓ以下
テトラクロロエチレン	0.01 mg/ℓ以下
1,1,1-トリクロロエタン	1 mg/ℓ以下
四塩化炭素	0.002 mg/ℓ以下

5 地下水揚水量報告

環境確保条例第97条及び第135条の規定に基づき、一定の規模以上の揚水施設（揚水機の出力が300ワットを超える揚水施設）により地下水を揚水している方から、年1回揚水量の報告を受けています。

また、環境確保条例では地盤沈下を防ぎ、地下水を保全するため様々な規制をしています。

（ア）環境確保条例に基づく揚水施設〔井戸〕の規制基準

吐出口断面積	地 域	ストレーナーの位置	揚水機出力	揚水量
6 cm ² 以下	23区26市2町	深さの制限無し	2.2kW以下	平均 10 m ³ /日 最大 20 m ³ /日
6 cm ² を超え 21 cm ² 以下	武蔵村山市	500m以深		

※ 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例の施行日（平成13年4月1日）以降は吐出口断面積が21 cm²を超えるものは設置禁止。

(イ) 市内揚水施設地下水揚水量

(単位：m³)

No.	施設名	1日平均揚水量				
		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	(株)いなげや武蔵村山精肉センター	0	14	12	30	60
2	(株)コトブキ 村山工場	3	5	3	1	2
3	ニシハラ理工(株)本社工場	119	146	170	174	186
4	(独)国立病院機構 村山医療センター	257	266	279	285	320
5	(福)鶴風会 東京小児療育病院	104	100	90	92	67
6	(学)東京経済大学 村山校舎	21	18	19	16	16
7	(株)マイテック	0	0	0	0	0
8	(株)ワイケーシー	9	7	7	8	5
9	(株)東洋ボデー	22	30	32	34	23
10	(福)武蔵村山正徳会	0	0	0	0	0
11	(有)紀の国屋	22	118	32	31	30
12	(有)梅田製作所	99	92	38	78	29
13	出光リテール販売(株) クルマークショップ	0	0	0	0	0
14	(株)小海ネームプレート製作所	4	18	20	21	18
15	(学)むさしの佐野学園 武蔵みどり幼稚園	2	2	1	1	1
16	日本医療衛生サービス(株)	50	41	40	38	38
17	第二砂川湯	7	0	0	5	19
18	武蔵村山市 村山温泉スタンド	84	86	83	98	27
19	鈴木 外記	3	3	3	2	2
20	(株)イシイ・フーズ	8	8	9	9	6
21	出光リテール販売(株) こぶしSS	10	13	13	5	2
22	(株)アサヒケーティ	10	8	8	8	9
23	比留間運送(株)	2	2	2	2	2
24	多摩冶金(株)	9	11	6	9	10
25	タマランチ(株)	12	12	11	10	11
26	わらべや日洋(株)東京工場	5	4	7	7	7
27	むさしの生コン(株)横田工場	10	2	2	4	4
28	東京都水道局多摩水道対策本部	2,566	2,158	819	2,538	2,491
29	湖南衛生組合	682	589	398	339	0
合計		4,120	3,753	2,104	3,845	3,385

《 その他 》

1 飼い主のいない猫去勢不妊手術補助金

飼い主のいない猫に去勢・不妊手術を受けさせた経費の一部を補助することにより、飼い主のいない猫の増加を抑制し、公衆衛生の向上等を図ることを目的に、毎年度要綱を定め、去勢手術1頭につき3,000円、不妊手術1頭につき4,000円を限度とし、実際に要した費用とを比較していずれか少ない方の額を補助しています。

〈飼い主のいない猫去勢不妊手術補助金交付申請件数〉

(単位：件)

年 度	申請数				合計
	犬		猫		
	去勢	不妊	去勢	不妊	
平成 25 年度	52	50	95	89	286
平成 26 年度	48	43	101	105	297
平成 27 年度	59	54	109	106	328
平成 28 年度	50	54	118	128	350
平成 29 年度			13	21	34

※ 平成 28 年度までは、犬及び猫の去勢不妊手術に対し補助金を交付していたが、平成 29 年度から補助金対象を飼い主のいない猫のみとしたため、申請数が大幅に減少している。

2 犬のふん放置防止啓発看板

武蔵村山市空き缶・吸い殻等の散乱及び犬のふんの放置等の防止に関する条例に基づき、飼い主のマナー向上、犬のふん放置を防止するため、啓発用看板を配布しています。

〈犬のふん放置防止啓発看板配付数〉

(単位：枚)

年 度	配付数
平成 25 年度	201
平成 26 年度	254
平成 27 年度	179
平成 28 年度	234
平成 29 年度	216



3 ペットの飼い方教室

人とペットが楽しく共生するために、ペットを飼養する者が正しい飼養の仕方を理解し、ペットの飼養のモラルの向上を図り、もって市民生活の安定を図ることを目的として、ペットの飼い方教室を実施しています。

〈ペットの飼い方教室実施状況〉

(単位：人)

実施日		実施内容	参加数
平成 26 年度	12. 18	狂犬病について しつけについて ふれあい犬の実技	19
平成 27 年度	5. 29	狂犬病について しつけについて ふれあい犬の実技	20
平成 28 年度	5. 27	狂犬病について しつけについて ふれあい犬の実技	8
平成 29 年度	5. 26	犬と楽しく暮らすには ふれあい犬の実技 猫と楽しく暮らすには	10

4 ユスリカ等害虫駆除

ユスリカは、池、水田、側溝、プールなど、流れの少ない水域で春先から初夏にかけて発生し、蚊のような虫が水際で柱状に集まり飛びます。

また、汚れた水域やきれいな水域など、環境に応じた種類のユスリカが発生するため、日本では約千種ものユスリカが確認されています。ユスリカは、ハエ科に属する虫で蚊のように人の血を吸うことはありませんが、屋内に侵入したり、時には洗濯物を汚したりするため「不快害虫」と呼ばれています。

ユスリカ等害虫駆除は、市民等から要望があった際に随時行うこととしていますが、ここ数年は未実施となっています。

5 殺そ剤の配付

市では、伝染病予防法第 16 条の 2 第 1 項の規定に基づき、殺そ剤を原則 1 回に 2 袋まで配付しておりましたが、平成 11 年 4 月 1 日にこの法律が廃止されました。しかし、引き続き、公衆衛生の確保の推進に努めるため、殺そ剤の配付を行っています。

〈殺そ剤配付数〉

(単位：袋)

年 度	購入数	配付数
平成 25 年度	200	119
平成 26 年度	0	129
平成 27 年度	0	112
平成 28 年度	0	158
平成 29 年度	200	126

6 スズメバチの巣駆除作業補助金・薬剤の販売

市では、スズメバチの巣駆除費用の一部を補助することにより、スズメバチの危害から市民生活を守ることを目的に、毎年度、要綱を定めスズメバチの巣を専門の業者に依頼して駆除された方に、14,550 円を限度にかかった費用の半額を補助しています。(平成 16 年度までは 15,000 円)

また、自分で駆除される方のために、薬剤を市役所 1 階市政情報コーナーで販売しています。

〈スズメバチの巣駆除作業補助及び薬剤の販売〉

年 度	補助数 (件)	販売数 (本)
平成 25 年度	50	24
平成 26 年度	57	20
平成 27 年度	52	20
平成 28 年度	56	11
平成 29 年度	51	19

7 畜犬登録事務

狂犬病予防法第4条に基づき、犬を取得した日(生後90日以内の犬を取得した場合は、90日を経過した日)から30日以内に登録をして、鑑札をその犬に着けておかなければなりません。また、その犬が死亡した場合、所在地の変更、所有者の変更があった場合は、30日以内にその旨を市町村に届け出なければなりません。

狂犬病予防注射については、法第5条に基づき毎年1回注射を受けさせ注射済票をその犬に着けなければなりません。注射の時期については、法施行規則第11条で生後91日以上の子犬については、4月1日から6月30日までの間に1回受けなければなりません。このため市では、毎年4月中旬に集合注射を行っており、平成29年度は、市内5箇所(残堀・伊奈平地区学習等供用施設、三ツ木地区学習等供用施設、中藤地区学習等供用施設、大南公園、市役所第三庁舎前)で2日間にわたり集合注射を行いました。

(ア) 登録等手数料

	手数料等
登録及び鑑札の交付	3,000円
鑑札再交付	1,600円
注射済票	550円
注射済票再交付	340円

(イ) 畜犬登録事務

(単位:頭)

年 度	登 録	鑑札再交付	狂犬病予防 注射済票	死亡届	変更届	無償交換	登録頭数
平成25年度	261	39	3,076	397	158	35	4,402
平成26年度	298	32	3,130	273	145	50	4,349
平成27年度	258	38	3,145	270	197	60	* 3,960
平成28年度	247	32	3,025	279	67	49	3,924
平成29年度	252	32	3,059	287	35	58	3,901

※ 実態調査を行った結果、死亡届が提出されていない飼い犬等が判明し、平成27年度に登録を抹消したため、平成26年度と比較して登録頭数が減少しています。

8 アライグマ・ハクビシン防除事業

平成 29 年度から東京都アライグマ・ハクビシン防除実施計画に参加し、市内における生態系及び生活環境への被害の軽減と拡大の防止を目標とし、これらの動物の生息状況等を把握するため、目撃情報や被害状況をもとにセンサーカメラ及び捕獲器を設置し、積極的な防除を実施しています。

区分 年度	目撃等 相談件数(件)	カメラ 設置件数(件)	捕獲器 相談件数(件)	捕獲頭数(頭)	
				アライグマ	ハクビシン
平成 29 年度	73	16	47	22	7

9 みどりのカーテンキット配布事業

市民を対象にみどりのカーテンキットを配布し、つる性植物を窓際で育成することにより、夏季におけるエアコンの利用を抑制し、もって地球温暖化対策を推進しています。

<みどりのカーテンキット配布実績>

(単位：件)

年 度	配布総数	一般家庭	公共施設
平成 25 年度	500	384	116
平成 26 年度	300	300	0
平成 27 年度	400	400	0
平成 28 年度	500	470	30
平成 29 年度	500	418	82

10 環境フェスタ

市民参加型イベントである村山デエダラまつりと同時開催の「環境フェスタ」で環境課のブースを設け、環境関連のパネル展やeサイクル・発電自転車の体験搭乗会を実施し、地球温暖化や住環境に対し、来場者である市民の意識の高揚を図り、一人一人が環境保全について関心を持つことを目的としています。

11 省エネナビ貸出事業

省エネナビを市民に貸し出すことにより、各家庭における電力消費量の可視化を通して節電意識の醸成を図り、家庭での省エネルギーの促進を図っています。

〈省エネナビ貸出実績〉

(単位：台)

年 度	貸 出 数
平成 27 年度	18
平成 28 年度	14
平成 29 年度	17

※ 各年度末現在における貸し出し中の台数を計上している。

12 打ち水イベント

猛暑日や熱帯夜が増加するなど夏の暑さが課題となっており、暑さ対策を進めていくことが求められています。涼を得るための江戸の知恵である「打ち水」が、東京のおもてなしとして定着することを目指し、平成 29 年 7 月に開催しました。

場所は市役所北側玄関付近、市長を筆頭に来庁された市民の方にも参加いただき、多くの方々が打ち水を行います。

13 空間放射線量測定

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に伴う東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故により、放出された放射性物質による環境汚染状況についての測定に関し、市民の健康及び安心・安全を確保することを目的として、現在「武蔵村山市における平成 27 年 4 月 1 日以後の事故由来放射性物質飛散対応指針」に基づき市役所敷地内の側溝等の放射性物質がたまりやすい場所を地上から 1 メートルの高さで空間放射線量を毎月測定しています。

この指針に基づき測定した結果、毎時 0.23 マイクロシーベルトを超えた場合は、簡易な除染作業を行った後、再測定を行います。その結果、なお基準値を超えている場合については、市民等への立ち入りを禁止するとともに、関係原子力事業者に対し、協力を依頼するとともに、東京都に対し報告し、処分方法等について協議をします。

なお、簡易な除染作業を行っても、毎時 1 マイクロシーベルトを超える高い箇所がある場合は、市民等への立ち入りを禁止するとともに、特別措置法の規定に基づき国に対し除染支援を要請するものとします。

<空間放射線量測定結果>

(単位： $\mu\text{Sv/h}$)

測定年度	測定場所			
	①本庁舎東	②本庁舎・レストラン棟間	③本庁舎北西	④市民駐車場
平成 27 年度	0.06	0.07	0.05	0.05
平成 28 年度	0.05	0.07	0.05	0.06
平成 29 年度	0.05	0.07	0.05	0.05

※ 1 年間の測定値の平均値

平成 30 年度 環境保全のあらまし（平成 29 年度実績）

編集・発行

武蔵村山市協働推進部環境課環境保全係

東京都武蔵村山市本町一丁目 1 番地の 1

電 話 0 4 2 - 5 6 5 - 1 1 1 1

F A X 0 4 2 - 5 6 6 - 4 4 9 3